第1部　看護学校3年課程

I　属性

1）設置主体

設置主体は，**表1－1**の通りである。回答のなかった学校を含めた全校の設置主体別分析と比べてみると，回答校に特に偏りのないことがわかる。

表1－1　設置主体全校と回答校との比較

	回答校	全　校
国（厚生省）	61（18.8）	86（19.4）
国（文部省・その他）	14（4.3）	16（3.6）
都道府県	54（16.6）	79（17.8）
市町村	45（13.8）	61（13.8）
日　赤	32（9.8）	36（8.1）
済生会並びに北海道社会事業協会	4（1.2）	5（1.1）
厚生連	10（3.1）	13（2.9）
医療法人	18（5.5）	30（6.8）
学校法人並びにその他の法人	33（10.2）	51（11.5）
医師会	7（2.2）	8（1.8）
社会保険関係団体	10（3.1）	12（2.7）
会　社	7（2.2）	8（1.8）
その他	30（9.2）	38（8.6）
合　計	325（100.0）	443（100.0）

2）一学年定員数

一学年定員数は，1校平均47.7人。最小15人から最大180人と幅がある。

3）専任教員数

専任教員数は，平均8.0人，最小3人，最大25人と，1学年定員数と同様，学校間格差が大きい。

4）課程別

課程別にみると，全日制318校で97.8%，定時制が7校で2.2%であった（**表1－2**）。

表１－２　課程別

課　　程	全　校	回答校
全　日　制	433(98.0)	318(97.8)
定　時　制	10(2.0)	7(2.2)
合　　計	443(100.0)	325(100.0)

Ⅱ　応募・入学状況

1）1994年度の受験応募者数，受験者数，入学者数

94年度の応募者数は，一般入試67,119人，推薦入学7,080人，２次募集508人と一般入試によるものが圧倒的に多い。受験者数，入学者数も一般入試が最も多い。

応募者数に対する受験者数の比率（Ｂ／Ａ）は，一般入試が91%，推薦入試99%，２次募集79%と，推薦入学が最も受験者比率が高い。

入学競争率をみると，一般入試，5.7倍，推薦入学1.3倍，２次募集1.7倍と，一般入試の競争率が最も高い。厚生省資料によると，94年度の競争率は全国平均で4.3倍であった。今回の調査結果を，一般入試，推薦入学，２次募集を合わせた競争率は4.2倍であり，厚生省統計による競争率とほぼ同じであった（**表１－３**）。

定員に対する入学者の比率は，104.4%である。入学者のうち一般入試による者が最も多く，66.3%を占める（**表１－４**）。

表１－３　1994年度の受験応募者数，受験者数，入学者数の総計

	一般入試	推薦入学	２次募集	合　計
応募者数（A）	67,119人	7,080人	508人	74,707人
受験者数（B）	61,233人	7,017人	405人	68,655人
入学者数（C）	10,751人	5,249人	206人	16,206人
受験者比率B/A×100	91%	99%	79%	92%
競争率　B／C	5.7倍	1.3倍	1.7倍	4.2倍

無回答３校を除く322校の総計

表１－４　定員に対する入学者の比率

一学年定員	15,515人	100%	—
入学者数計	16,206人	104.4%	100.0%
一般入試	10,751人	69.3%	66.3%
推薦入試	5,249人	33.8%	32.4%
２次募集	206人	1.3%	1.3%

2）1994年度の大学，短期大学卒業者の応募・入学状況

表１－３に示した応募者，受験者，入学者数のうち，大学・短期大学卒業者（男女別）を再掲したのが**表１－５**である。短期大学卒業者の女子の応募者が1,031人と多いが，入学者比率（応募者のうち実際に入学した者の比率）を見ると31％と，大学卒男女，短期大学卒男子と比べて低い。

一方，大学卒男子は，応募者105人と，短期大学卒女子の10分の１程度の応募者数であるが，入学者比率は，43％と，最も高い。

表１－５　1994年度の大学，短期大学卒業者の応募・入学状況

		応募者（A）	受験者（B）	入学者（C）	入学者比率（C/B×100）
大学卒業者	女子	393人	355人	135人	38%
	男子	105人	91人	40人	43%
短期大学卒業者	女子	1,031人	957人	306人	31%
	男子	23人	22人	8人	36%

応募者・受験者，入学者の学歴別人数不明17校を除く308校の総計

3）過去３年間の入学者等の受け入れ状況

過去３年間に大学卒業者，既婚者，社会人など特定の属性の入学者や応募者がいたのかを，たずねた。「入学したことがある」と答えている学校の割合は，大学卒業者が47.1％，短期大学卒業者が62.5％，既婚者35.4％，子供有りが34.2％，就労経験者（社会人）74.8％，30歳以上32.0％であった。

他方，既婚者，子供有り，年齢30歳以上については１割前後の学校が応募を受け付けないと回答している（**表１－６**）。

表１－６　過去３年間の大学卒業者等の受け入れ状況

	入学したことがある	応募者はあったが入学者はいなかった	このような応募者はいない	このような応募者は受け付けていない	無回答・不明	合計
大学卒業者	153 (47.1)	61 (18.8)	82 (25.2)	9 (2.8)	20 (6.2)	325 (100.0)
短期大学卒業者	203 (62.5)	64 (19.7)	36 (11.1)	3 (0.9)	19 (5.8)	325 (100.0)
既婚者	115 (35.4)	54 (16.6)	95 (29.2)	36 (11.1)	25 (7.7)	325 (100.0)
子ども有り	111 (34.2)	45 (13.8)	108 (33.2)	34 (10.5)	27 (8.3)	325 (100.0)
就労経験者（社会人）	243 (74.8)	46 (14.2)	17 (5.2)	3 (0.9)	16 (4.9)	325 (100.0)
年齢30歳以上	104 (32.0)	77 (23.7)	85 (26.2)	32 (9.8)	27 (8.3)	325 (100.0)

4）大学，短期大学の卒業者を受け入れたことについての評価

大学，短期大学の卒業者を受け入れたことについての意見を自由に記述したものをまとめた。その結果，大学卒業者についてプラスの評価の記述があったのは，107校，69.9%（大学卒業者が入学したことがある学校数に対する比率），短期大学卒業者（短期大学卒業者が入学したことがある学校数に対する比率）についてプラスの評価の記述があったのは，109校，53.7%であった。

短期大学卒業者に対しての評価は，大卒者よりも「どちらともいえない」や「無回答」の割合が高い。いずれにせよ，大卒者の入学を，評価している学校は多い（**表１－７**）。

尚，具体的な自由記述に関しては次のような回答が代表的であった。

・クラス全体で討議したり行動したりする時に，リーダーシップを発揮し，よきまとめ役となってくれる。
・部外者に対しての言葉使い礼儀などが高卒者よりも出来ており，高卒者に対しても指導ができる。
・目的意識が明確であるため学習に積極的に取り組む姿勢が養われている。
・高卒者に対して良い刺激となっている。反面，高卒者の同級生の中に溶け込むことができない学生もいるが，性格的なものである。

表１－７　大学，短期大学の卒業者を受け入れたことについての評価（自由記述）

	大学卒業者について	短期大学卒業者について
大学・短期大学卒業者が入学したことがある学校数	153(100.0)	203(100.0)
プラス評価を記した回答	107(69.9)	109 (53.7)
マイナス評価を記した回答	3(2.0)	7 (3.5)
その他の回答(どちらともいえない，プラス，マイナスもあるなど)	32(20.9)	62 (30.5)
無　回　答	11(7.2)	25 (12.3)

5）大学・短期大学卒業者の今後の受け入れ方針

今後，大学・短期大学卒業者を受け入れていきたいとお考えですかという問に，「積極的に受け入れていきたい」と答えているのは，83校（25.5%）「受け入れていきたい」と答えているのは，217校(66.8%)「できれば受け入れたくない」と答えているのが，６校（1.8%）である。

「積極的に受け入れていきたい」「受け入れていきたい」という回答を合わせ，９割以上の学校が，今後大学・短期大学卒業者を受け入れる意志を持っている（**表１－８**）。

「積極的に受けれたい」あるいは「受け入れていきたい」と回答している学校の自由回答の代表的な意見は次の通り。

・看護者になることの意識が明確であり，学習に意欲的である。大学・短期大学で学んできた知識をもとに，論理的思考や研究する態度が見られ，それが看護を学んでいる過程においても生かされている。
・現在高校を卒業して入学してくる新卒者は，あまりにも精神的に幼い。少ない教員数で教員が手とり足とり学生にかかわっていくのではなく，既に高等教育を受た学生にリーダーシップをとってもらう

ことにより，高卒の学生達は，クラスメイトとのかかわりを深め，自分の力で学習方法などを身に付けることができるようになるから。

・看護婦になりたいと希望する人であれば高卒でも大卒でもかまわない。
・優秀な学生を確保することにより，クラスの活性化をはかりたい。
・応募者数の増加をはかりたい。
・高校生人口の減少。
・当県では，大学・短期大学が多く，専修学校である本校への高校卒業後の受験生の学力低下が懸念される。
・高卒者に比べて，人間的に成長しており，看護職者として患者の生活を捉えていくという学習の到達度が高い。

表１－８　大学・短期大学卒業者の今後の受け入れ方針

積極的に受け入れていきたい	83 (25.5)
受け入れていきたい	217 (66.8)
できれば受け入れたくない	6 (1.8)
受け入れない	0 (0.0)
無　回　答	19 (5.8)
合　　計	325 (100.0)

6）大学・短期大学を卒業した学生の就職先と問題点

大学・短期大学卒で，看護学校に入学し卒業した学生の就職先と就職に関する問題点について自由記述でたずねたところ，次のような回答があった。

主な就職先など

附属・系列病院	106校
附属・系列病院以外	8校
高卒者と比べて特徴無し	27校
まだ卒業生が出ていない	92校
進学したあるいは進学先が既に決まっている	27校
海外青年協力隊，ターミナルケアなど	6校

問題点についての記述のあったもの

病院の体制が問題	3校
年齢面で不利	23校

＊自由記述の回答をアフターコード（類似の回答を集めて分類）した

7）大学・短期大学卒業者の受け入れに関する検討の必要性

今後短期大学・大学卒業者の受け入れに関して検討の必要があると思われることを回答してもらった（**表１－９**）。

その中で最も多い回答は「一般教養科目に関して大学・短期大学で取得した単位の認定」，次いで「専任教員の増員」，「実習教員の増員」などマンパワー整備の問題や，「奨学金の充実」があげられている。

表１－９　今後短期大学・大学の卒業者の受け入れに関して検討の必要があると思わること（複数回答）

一般入試とは受験科目の異なる特別入学枠の設定	80（24.6）
一般教養科目に関して大学・短期大学で取得した単位の認定	136（41.8）
専任教員の増員	100（30.8）
実習指導教員の増員	89（27.4）
奨学金の充実	84（25.8）
就学しながら学べる方策の検討	16（4.9）
そ　の　他	28（8.6）
回答校数	325（100.0）

第２部　看護短期大学

Ⅰ　属性

1）設置主体

回答のなかった学校を含む全校の設置主体別分布と比べ大きな差はない。設置主体は，**表２－１**の通りである。

表２－１　設置主体

	回答校	全校
国（文部省）	14（33.3）	23（37.1）
都道府県	9（21.4）	13（21.0）
市町村	3（7.2）	4（6.5）
日赤	1（2.4）	2（3.2）
学校法人	15（35.7）	20（32.3）
合計	42（100.0）	62（100.0）

2）一学年定員数

一学年定員数は，平均73.8人，最小40人，最大100人である。